

WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

11
2024
November
No. 541



能登半島被災地 追悼と鎮魂ならびに復興祈願式を挙行 黙とうを捧げる参加者（11月14日 輪島朝市通り）

こころの扉—「念ずれば 花ひらく」 浜島典彦	2
日本被団協のノーベル平和賞受賞を祝して	3
座談会：国際会合「平和のためのAI倫理」を振り返って	4～7
WCRP日本委員会でのインターンシップを終えて	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8

「念ずれば 花ひらく」

今から三十年程前、全国青少年教化協議会が発行している月刊誌「ぴっばら」の執筆をお手伝いしていた頃、墨蹟展に出品されていた仏教詩人坂村真民先生が染筆された「念ずれば 花ひらく」を手に入れ、親しくお話をさせていただいた。

今、インバウンドの波が身延山にも押し寄せ、時には、朝のお勤めに三十人余の外国の方々が参詣している。導師を勤め、回向の中で「ウクライナ戦争 中東紛争早期終結」を祈り、そして参詣者へ挨拶をする。その時、国々

WCRP日本委員
身延山久遠寺総務
議員

浜島典彦



の名を読み上げ、拙い英語でお持て成しをしている。

朝勤参詣に、結構ヨーロッパの人たちが多く。先日、驚いたことがあった。ウクライナとロシアの人が同座していたのだ。思わず、『何とかロシアによる戦争を止めて下さい』と言ってしまった。

ロシアがウクライナへの侵攻を始めた因由のひとつに正教同士の争いもあると聞く。殊にロシア正教会のキリル総主教がロシアによる侵略の歴史的、宗教的裏付けをして正当化しようとしていることは、誠に気になること

ろである。

本来、宗教とは人々の幸せへの願いを実現させ、弱者救済を目的とするものである。それがウクライナ戦争も中東紛争も人を殺戮する後ろ盾となってしまっている現実に憂いざるを得ない。

仏教では、五戒を説き、一番はじめにあるのが「不殺生戒」である。お釈迦様は「アヒンサー」、非暴力・不殺生を高らかに掲げ、『法句経』において

すべての者は暴力におびえる。全ての生きものにとつて命はいとしい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。

と説かれている。「己が身にひきくらべて」とは、自分を殺される立場になってということである。苦しみ痛む側に自分の身を置き、考え行動しなさいという言葉は、とても重い意味をもっている。

今、身延山久遠寺では、法華経の「開会（かいえ）」の思想に基づき「共に生き 共に栄える」という信仰運動「共栄運動」を推進している。

「共に生きる」とは、国・人種・民族・宗教・価値観の違う相手を尊重し敬い、相手を認めながら共に生きることであり、それを実践して「共に栄える」、幸せになることである。

お釈迦様の智慧、法華経の智慧を今こそ活かす全世界が幸せにならなければならない。今、その時にきている。私には、ウクライナや中東の戦場に立って訴える「行動」の勇氣はないが、「共生 共栄」を口に念じ、花がひらくことを信じることは出来る。

日本被団協のノーベル平和賞受賞を祝して

12月10日、ノルウェーの首都オスロで日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞する。日本被団協と共にさまざまな場面で核兵器廃絶を訴えてきたWCRP日本委員会は、この日本被団協の受賞を喜び、祝賀のメッセージを發した。戸松義晴理事長談話（10月12日）

この度、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞されましたことを、心からお喜び申し上げます。被爆者の皆様が「ふたたび被爆者をつくらない」という信念のもと、心身に深い傷を負いながら、筆舌に尽くしがたいご努力で



清水寺でヒバクシャ国際署名を実施（2017年・京都）

核兵器廃絶を先頭に立てて訴え続けました。その取り組みは、国連や国家間の軍縮交渉、政府、議会などの政治、外交の場であつたり、

ここで実践されてこられました。その身を挺した行動に「核兵器なき世界」の実現をめざす多くの人々が励まされてきました。この日本被団協の取り組みがノーベル平和賞を受賞されたことは、核兵器廃絶に向けて非常に大きな前進をもたらし、その実現をめざす人々に多大な勇気を与えるものです。さまざまな宗教者からなるWCRPは創設以来、宗教的信仰のもとに「核兵器なき世界」の実現を求めてきましたが、いつも被爆者の皆様の核兵器廃絶に対する真摯な思いと行動から、人道主義による平和運動の大切さを学んでまいりました。日本被団協の受賞は、私たちWCRPにとりましても大きな喜びであり、励ましを頂いたものであります。この度、改めてWCRPは被爆者の皆様の切実な訴えを心に刻み、一



WCRPで講演する日本被団協の肥田舜太郎医師（2010年・横浜）

さまざまな市民集会、青少年における教育の場であつたり、さらには酷暑、厳寒の中の街頭の場であつたりとさまざまな

日も早い「核兵器なき世界」の実現に力を尽くす決意を新たにします。菊地功評議員コメント（カトリック東京大司教・2024年12月枢機卿就任予定）
今年のノーベル平和賞を日本被団協が受賞されるとの一報は、バチカンにおいても喜びをもつて受け止められています。ヨハネ・パウロ二世と教皇フランシスコの二人の教皇は、それぞれ広島と長崎を訪れています。1981年に訪れたヨハネ・パウロ二世は「この戦争は人間の仕業です」との力強いメッセージを發信しました。また、2019年に訪れた教皇フランシスコは「核兵器は使用することだけでなく、持っていることでさえ倫理的に問題がある」と、画期的な指摘をされました。日本政府が先頭に立って、このことを力強く世界に訴えてほしいと願います。日本被団協に授与される今年のノーベル平和賞は、単に核兵器廃絶のための過去の運動が認められたというだけでなく、核兵器の存在そのものを考え直すべきだということの中の人びとの期待が込められていると思います。

座談会…国際会合「平和のためのAI倫理」を振り返って



WCRP日本委員会が共催し、7月9、10日に広島で開催された国際会合「平和のためのAI倫理…ローマからの呼びかけにコミットする世界の宗教」を振り返る座談会を、10月22日にオンラインで行った。対談者は、会合に参加した5人。この会合の意義を確認し、今後の取り組み、今後の方向を確認するものとなった。司会は山越教雄事務次長が務めた。対談者…

戸松義晴理事長

松井ケイ理事、女性部会部会長（清泉

女子大学教授）

加藤大志青年部会副幹事長（服部天神宮

欄宜）

村上泰教青年部会幹事（石鎚山真言宗総

本山極楽寺教学部長）

篠原祥哲WCRP日本委員会事務局長

山越 まず初めに、会合に参加された感想、印象に残ったことなどをお話ください。

加藤 世界各地から広島に、さまざまな宗教の代表者が集まったということに意義があったと思います。宗教者は、自分の体験をもとに自分の言葉で語ることが大事だと考えますが、AIに日常から触れ自分の言葉で語ることが大事だと思いました。また、時代とともにさまざまな新しい技術が出てきますが、十分な吟味をすることなしに無条件に依存してしまうことも心配なことだと感じました。

松井 人工知能としてのAIは、人間が持っている価値観や原理のもとで動くわけですから、人間がどういう価値観や原理をもって、AIと共存するのかということが大事だと思いました。そういう意味で、人間の尊厳やいのちの尊厳といったことを学ぶ教育がますます大切になって来ると思います。AIの利用について議論する場に宗教者が集ったこの会合は、とても重要な意味

があったと思います。宗教者がその価値観や原理を持っており、人々にそのことを説く役割があるからです。

篠原 AI会合の後、アベマTVというインターネットテレビ局から出演依頼がありました。宗教とAIがテーマということに、社会的インパクトがあったようです。あるコメンテーターが、「宗教はAIと対峙する、否定するスタンスであろうと思っていたが意外だった」と言われました。さらに、「AIは神になれるのか」と問われたので、「AIはあくまで道具であって、神として崇める対象ではないと考える」と答えました。社会の人びとは、AIが神になって全知全能の力を発揮してくれるのではないかという期待と不安を感じ、それに対して宗教界はどう応えるのかという関心を持っているのだと思いました。

山越 「AI倫理会合」が開催された意義、AIに対し倫理・宗教的側面から応答する意義などについての考えをお聞かせください。

村上 松井先生がモデレーターを担当されたセッション3において、倫理のあり方、生活のあり方、命への向き合い方といった倫理的宗教的な意見が活発に交換されてい

ましたが、肉体を持って死後の世界も含めて語れる宗教者が倫理を説くということに大きな意味があると思いました。また、多くの宗教者が少欲のスタンスで話をされていますが、世の中を平和にするためには貪欲ではないけない、少欲というものを進めるのが宗教者のスタイルだと思いました。さらに、AI利用という意味では消極的ではなく、積極的にこちらからアイデアを出してゆく必要があると思いました。



加藤 AIに対して宗教が貢献できること

とは何かと考えたとき、私は「長期志向」ということを挙げたいです。江戸時代の一年分の情報を一日で消費しているような現代にあつて、人びとは今を生きることにとらわれ、迷いの中を生きている方が多いように見受けられます。そのような時代だからこそ、宗教に触れることが大事になると思います。神社にお参りいただくことを通して、人知を超えた世界に対して畏れ、敬う、そういう長い時間を軸に身を置くきっかけが作れると思います。さらに自分たちは、この世の中をコン

トロールできないということに気づかさず、過去からずっとつながっている長い時間軸の中に自分たちがいることを感じることで、人間の生き方というものが見えてくると思います。



松井 このタイミングで開催したことに意

味があつたと思います。過去には、科学の発展の中で宗教界が声を上げたとしても無視されたのではないのでしょうか。無視されたから、戦争が起きてしまった。そのようなことを防止するということ、2020年にバチカンが声を上げ、議論が行われる過程において、私たち宗教者の意見を反映させる道が開けたという大きな意味があると思います。

篠原 AIの問題は平和の問題と密接につながっています。国連がこの問題を取り上げた経緯を見ると、差別の問題やヘイトスピーチの問題があります。ネット上にナチス賛美や白人至上主義的な内容が掲載され、AIを利用したネット検索から人々の間に分断を引き起こす現象が見られています。国際機関からは、AIが経済格差を広

げているというデータなども示され、AIを使用できる国とできない国の人びとの間に経済格差が生まれるという警告も発信されています。さらに問題なのは、AIが兵器に利用され始めているということですね。国連をはじめ世界が、AIについて議論を始めたタイミングで今回の会合を開催したのはよかったです。また、広島を会場に開催したことも大きな意味があつたと思います。いつの時代でも最先端技術が開発され利用されますが、80年前の最先端技術であつた原子力の間違った使い方をしたのがヒロシマであつたと思います。今の最先端技術であるAI利用を議論するには広島は象徴的な場所でした。そして、アブラハムの宗教としてのユダヤ・イスラーム・キリスト教だけでなく、日本から神道・仏教、アジアからヒンズー教など、世界の宗教指導者が参集できたことがよかったです。さらに、マイクロソフト、IBMなどのビジネスリーダーたち、河野太郎デジタル大臣をはじめとした政治家も議論に参加したことに意味があつたと思います。

山越 今後の取り組みのあり方についての意見をお聞かせください。

村上 AIの特筆すべき点は、学習能力が



ずば抜けて高いという事です。仏教研究の中でも、全文検索や論旨の要約などで利用されています。チャットGPTを使用すると、サンスクリット語の検索や解説などでは精度が高く、仏教用語に関しても今後、向上してくると期待しています。他方で、医療現場で活動する中で、宗教者と医者の違いについて考えさせられたことがあります。ひとりで表現すると、対峙している関係か、同じ方向を向いて進む存在かという点です。宗教者は、生まれてから死ぬまで、さらに死んだ先まで一緒に歩むスタンスですが、医療者は、治療するその場所だけです。このことを思うとき、AIは私たち宗教者のように人生の全てを受け止めてくれる存在になり得るのだろうかということです。

加藤 宗教は、言語よりも非言語を大事にしてきたから続いてきたと考えています。神社神道の場合、教義経典はありませんが、身体性や感性を大切にし、共有してきたので続いてきたと思います。この身体性や感

性がこれからのAIの時代に大事なキー

ワードだと思えます。場を共有し一緒に感じることによって、人びとは心を動かされるのではないのでしょうか。お祭りを想像してください。神輿を担ぐときに言語的な説明などしませんが、みんな思いを一つにお神輿を担ぎ、お供えた食事をみんなで食べることで共感性を高めるようなところがあります。このような、少し長い時間軸で見た、身体性や感性というところは、経済や政治という分野では担えないところだと思えます。

松井 宗教者の原理と価値観に基づいたガイドラインが作成できればよいと思えました。AIに限らず、社会において大きな変化があるときには、そのガイドラインが参照され、宗教者の意見が反映されるとよいと思えました。科学技術が独り歩きをしてしまうことを防ぐためにも、宗教の価値観が反映されることが必要だと思えます。

篠原 岸田首相に報告に伺ったとき、「宗教



界の皆さまと一緒に取り組んでいきたい。このAIの問題を考えるには、人間の本质にかかわる深い部分

に対する洞察が不可欠だと思う」とおっしゃられた。ローマコールの中で人間の尊厳

を守るということが強調されていますが、尊厳とは何かという自己決定権だということ。自分のことは自分で決められるという、自己決定権が最大限配慮されなければならぬと述べられています。「AI技術の利用にあたっては、人間の尊厳が守られなければならない」ということを宗教者が発信していかなければならないと思えます。

国連では昨年、AI利用にあたっての倫理ガイドライン作成のためのタスクフォースが立ち上がり議論が進められ、9月にガイドラインが出されました。このタスクフォースメンバーに、広島の場合に参加した方が複数名含まれています。そういう意味で、私たちが7月に開催した会合での議論もこのガイドライン作成のプロセスに含まれていると言えます。今後は、このように政策に反映させていく視点も重視していきたいと思えます。

山越 自由にご議論ください。

村上 私たちは、AIに対して肯定的に話しをしていますが、アジア、アフリカの方からは「新しい支配構造の始まりに過ぎ

ない」という意見がよく出されます。

篠原 支配構造ということでは、大規模な監視が進むことへの危惧があるそうです。世界中を駆け巡る情報がAI技術の進歩によって収集分析され、その情報は一部の権力者のもとに集まる。監視が少数の権力者でなされることによって、支配構造が築かれることが心配だ、という意見です。

松井 今の政治の支配構造を見直す必要があると思います。軍事力の強化をもって他国と対峙することが積極的平和であるなどと、平和学の積極的平和と反対の論理が幅を利かせる時代にあつて、政治や政策に宗教的倫理が反映されるような構造をつくることが大事だと思います。

村上 政治による支配もそうですが、現代は経済による支配が大きいと思います。宗教界が、よりよい新しい経済を提言できるようなのではないかと、この社会の支配構造は変わらないのではないかと思います。

篠原 経済の面でいうと、マイクロソフト、シスコ、IBMといったIT業界の世界トップ企業が参加したことに意味があつたと思います。利益の最大化を目的とする企業と少欲知足的価値を説く宗教界がひとつのテーブルに着いて議論をしたことは大きな

意義があつたと思います。



戸松 皆さん、ありがとうございます。よ

かつた部分は皆さん議論されていたように、宗教者だけでなく、当事者のビジネスセクターの人たちが参

加して議論できたことだと思います。社会構造にしても、経済システムにしても、経済界の当事者の方たちと一緒に取り組まなければ変わりません。その意味で、マイクロソフト、IBM、シスコの代表者が参加し、議論に加わっていたことは大変意味があつた

と思います。IBMのダリオ・ギル副社長が言ったことがとても印象に残りました。「IBMはAI開発のために既に約5兆円を投資している。私たちはこの技術革新を止めることはできない。ただ、研究は進めていくが使い方に関しては社会全体で考えてほしい。宗教者の方からも意見を挙げてもらいたい」と。また、マイクロソフトのブラッド・スミス会長からは、「日本の経済界・企業はどういう状況なのか、あなたたちは働きかけをしないのか」と言われた。今後、経団連や経済同友会などさまざまな社会のセ

クターに向かって声を上げていくべきだと思います。このAIに対しては宗教界全体で考えていかななくてはならないことだと思います。この問題が私たちに問うていることは、人間とは何かということだと思います。

村上 技術革新のために内閣府が進める研究開発制度「ムーンショット」の目標9に、仏教対話AIブツダポットを開発する京都大学熊谷誠慈准教授が参加しているように、我々も最新の研究をしている人びとと関係を持つことも必要だと思います。

戸松 これから政府でもAIと倫理のあり方について議論が始まると思います。その場に哲学者や倫理の専門家など、学識経験者も参加することになるのでしょうか、宗教者が入るべきだと思います。今回開催したAI倫理会合の成果を対外的にアピールし、そのような場に宗教者の代表が携われる環境をつくることも大事だと思います。

加藤 私も宗教者は宗教界だけにとどまっては意味がない、社会において他分野の皆さまと関わっていかねばならないと考えます。AIについても他の業界の方々と議論するにあたって、私自身も勉強し議論ができるように日々努力したいと思います。

以上

WCRP日本委員会でのインタビュー シップを終えて

上智大学実践宗教学研究科
博士前期課程 仲嶋真優



仲嶋真優さん

この度は、インタビューシップの受け入れをしてくださり、ありがとうございます。

私は現在、大学院で「宗教の公共性」について研究しており、WCRPの社会活動に大変興味があったため、今回は人身売買に関する円卓会議に携わらせていただきました。

まず印象に残っている点は、WCRPに携わる皆様のお人柄です。皆様の温かい雰囲気非常に和み、居心地が良かったとともに、お互いが尊重されあっているのが、話し方や接し方から伝わってきました。また、インタビュー生である私にも、発言や発表の機会を与えてくださったこと、今回もこうして感想を掲載して下さっていることに、皆様の寛容さや柔軟さを感じております。

今回参加した円卓会議のテーマである人身売買については、恥ずかしながら自分自

身あまり考えてこなかった内容でしたので、とても刺激を頂きました。自分の理解が深まったとともに、参加後はSNSで身近な友人にも内容を共有させていただきました。私と同じように、日本でも人身売買が行われていることに衝撃を受け、関心を持つていただけました。

また、諸宗教が自身の教えの実践だけでなく、一般社会において具体的な実践を様々にされていることも知れ、同じ宗教者として私も刺激を受けました。「同じ宗教者として」、更には「同じ人間として」、どう社会問題に向き合っていけば良いのかについて、深く考えさせられたインタビューシップでした。改めて、本当にありがとうございました！

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

衆福（しゅうふく）

平和と和解のためのファシリテーター養成セミナーにて修復的正義について学びました。参加者の笑顔が溢れていて、平和で幸福

な場となりました。

WCRPの活動

《11月》

- 7日 青年部会第2回幹事会（京都・清水寺）
- 8日 パグウォッシュ公開講座第2回（オンライン）
- 14日 災害対応タスクフォース能登半島被災地訪問・慰霊（石川県・輪島）
- 18日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備（埼玉・所沢）
- 21日 人身売買禁止タスクフォース第2回会合

- 25日 女性部会宗教別学習会（横浜）
- 26日 平和研究所第7回所員会議・研究会
- 28日 和解の教育タスクフォース第2回会合（清泉女子大学）

- 《12月》
- 2日 女性部会第2回委員会（清泉女子大学）
- 2日 平和研究所第8回所員会議
- 5日 災害対応タスクフォース第3回会合
- 9日 気候危機タスクフォース第2回会合
- 13日 第3回総合企画委員会（オンライン）
- 23日 ストップ！核依存タスクフォース第4回会合

掲載内容の無断転載を禁ず。